

日本DX大賞(地域DX部門)での大賞受賞

「待ちの保健指導」から 「攻めの予防」へ

AI×ビッグデータ×人の温もりが生み出した
全国初の一貫支援モデル

横須賀市発。テクノロジーは人を補助する「道具」。主役は「人」。



DXを通じて社会やビジネスの課題を解決し、
持続可能な成長を実現する取り組みを表彰

日本デジタルトランスフォーメーション推進協会等が主催
総務省等が後援

2022年からの開催で、今回で5回目
DXに関する分野では、日本最大級のコンテスト

審査員には、
経済産業省や大学教授、会社経営者等の有識者が多数

過去には、
マイナンバー交付率日本一の都城市の取り組み等が受賞



日本全国の民間企業、地方自治体等から
令和7年度中に、大きな成果や変化を生んだ取り組みが
過去最多の186件の応募

書類、PR動画、公開プレゼンテーションを経て

全6部門の内、
地域の社会課題解決や魅力向上に寄与する事例を表彰する

**地域DX部門
最高賞の大賞を受賞**



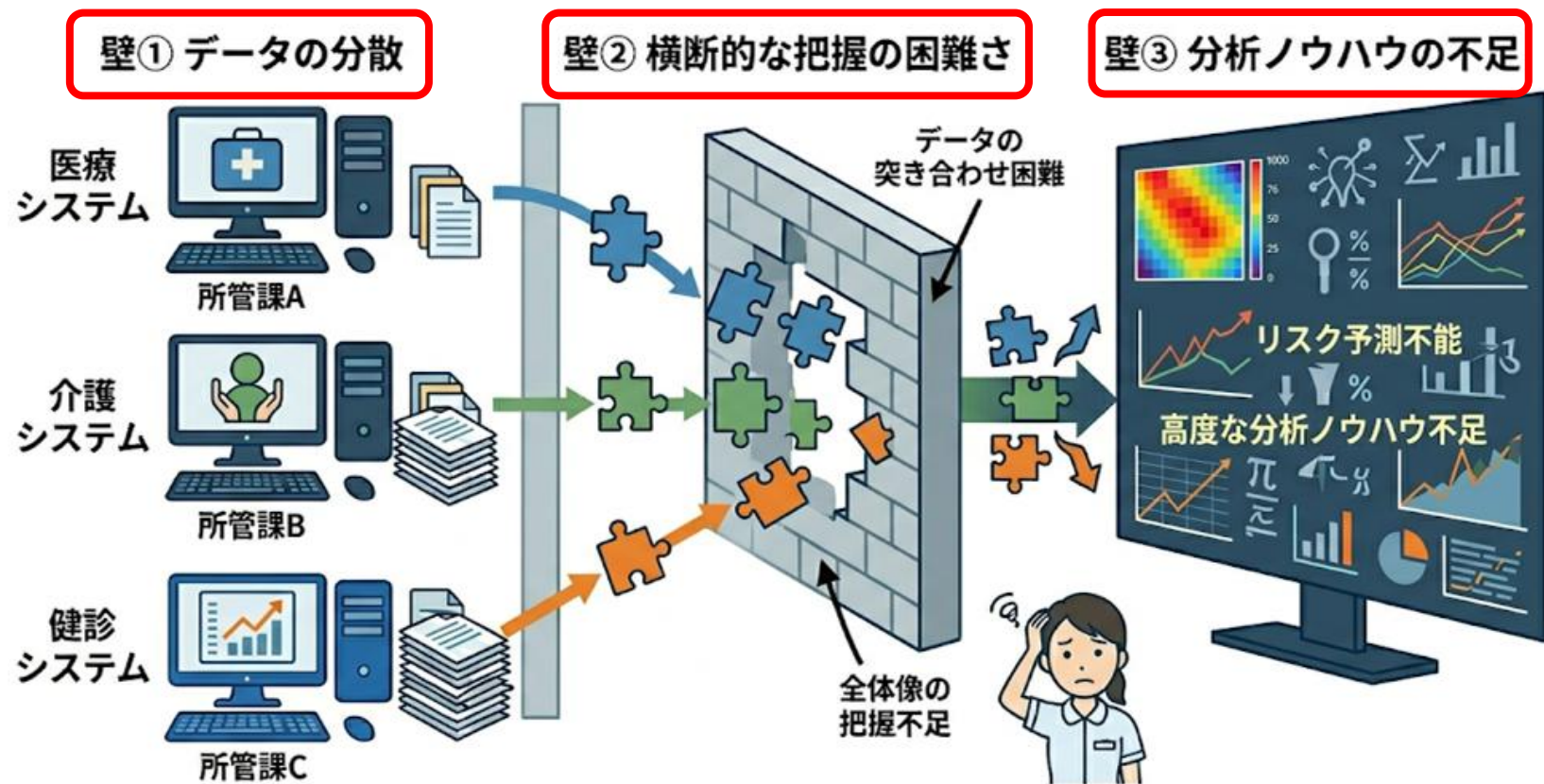
- ・ 一律の基準ではなく健康データを活用し、
市民の健康リスクをいち早く見つける予防的アプローチに着目
- ・ 市民の健康プログラムの参加者増加や、高い満足度などに結び付いている
- ・ 市の関係部署や協定企業である(株)JMDC が意欲的に連携し取り組んでいる

高齢化社会の日本において、国の医療を変える一歩



デジタル技術を道具とし、市民を幸福にすることを掲げてきた
横須賀市の姿勢が高く評価

課題：健康データの分散による把握、分析の困難





2025年5月：(株) JMDCと連携協定を締結



2,000万人分もの
健康ビッグデータと
その解析技術を持つ
国内トップクラスの企業

データ連結とAI分析

- ・医療、介護、健診、後期データを個人単位で連結
- ・2000万人分のビッグデータとAIで分析

リスク予測と抽出

- ・将来の疾病リスクが高い対象者を予測、抽出
- ・重症化前に、プッシュ支援

全国初の伴走支援

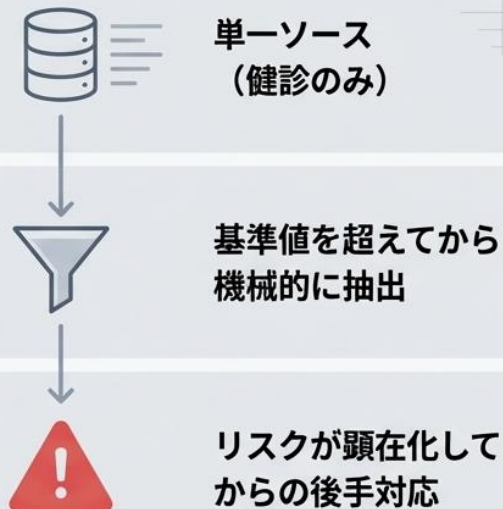
- ・データ分析に留まらず、抽出者に対し
- ・保健師等（医療専門職）が保健指導まで一貫して実施

なぜ「全国初」なのか：従来の対象者抽出方法との根本的な違い

全国初。データ分析から保健指導までの一貫実施

全国初：
分析と現場支援
の完全統合

Before：従来の受動型



After：横須賀モデル（能動型）



プログラム参加者

10倍

R6年度4名に対し、R7年度は40名
(既存対象20人+新規対象20人)

プログラム継続率

95%

参加者40名中、38名が完遂

参加者満足度

94.7%

参加者アンケートより

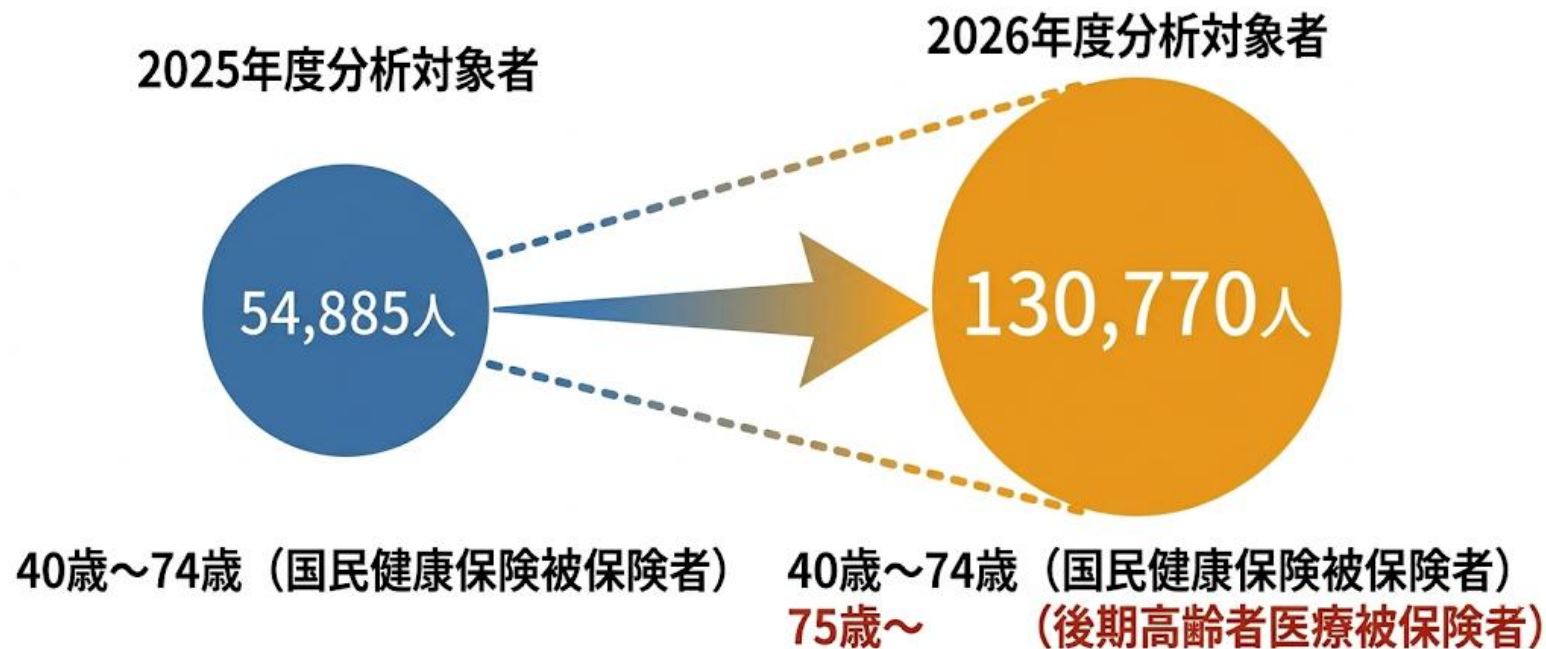
参加者の声

健康には自信があったのに、まさかリスクがあると思わなかった / 早い段階で指導してもらえてよかった

保健師の声

データの裏付けがあることで、自信をもって説明できるようになった

病気になって対応する「待つ行政」から、
データに基づき先回りして寄り添う「攻めの行政」へと変化



- ・ 後期高齢者の糖尿病性腎症重症化予防事業でも、分析データを活用
- ・ フレイルのおそれがある、低栄養の市民への保健指導にも、分析データを活用
- ・ 広く公募していた介護予防教室では、高リスク者に参加してもらえるようアプローチ